

令和6年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和7年2月7日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
魅力ある教育活動に努め、生徒の自ら学ぶ意欲と主体的な態度を育てる。	授業力向上	わかりやすい授業を進めるとともに、ICTを活用して「他者とかかわり合いながら、自己の考えを深め、更に学び続けようとする生徒の育成」に努める。	A	A	・生徒は元気に学校生活を送ることができた。 ・ICTをいかした学習指導の研究を推進し、学校体制で活用方法を工夫した。 ・タブレット、映像教材などを利用することが、生徒や教職員にはあたりまえになっている。 ・基礎的・基本的な学習の定着について、不十分と感じている保護者が多い。	A	・研究発表会で授業を参観したが、タブレットをしっかりと活用できていると感じた。他校からもよい評判が聞こえている。今後もICTを活用した授業を継続して行っていきたい。保護者は、家庭でのタブレットの利用の仕方しか見ていないので、上記のような授業でのICT活用の様子は保護者へ伝わりにくい。	・未来を生き抜く子どもたちにとって、ICTの使用が必須である。来年度も、この3年間の積み上げを大切にしていこう。 ・各教科の基礎的・基本的な学習の定着のために、個に応じた指導の工夫をしたり、計画的な教科コンクールの実施、課題の内容などを考えていきたい。
	人間関係づくり	豊かな体験活動の充実を生かした心に響く道徳教育の推進を図り、さまざまな道徳的価値観に気づき、考えを深める。	B	B	・定期的な生活アンケートと面談により、生徒の不安や悩みを早期発見、対応に努めた。 ・不登校生徒の居場所づくりに努めた。 ・ほくほくトークなどの活動を通して、仲間を認め合う雰囲気が出てきている。 ・道徳の授業公開ができなかった。	A	・3年生が家庭科の学習の一環として「赤ちゃん先生プロジェクト」を行っているが、道徳教育の面でも評価できる活動である。 ・生徒に困りごとがあったり、いじめや問題行動があったりしたときには、すばやく対応してほしい。	・SCを含めた相談活動や養護教諭との連携など、常に教員がアンテナを高くし、生徒情報の共有に努め、教員がより個々の生徒とのかかわりを大切にしていきたい。 ・生徒や保護者の思いを受け止め、迅速に、そして丁寧に対応をしていく。
	生徒活動の活性化	生徒がすすんで取り組む活動を奨励し、取り組みの姿勢や成果から形成的に個の成長を認め、達成感と自己有用感を育てる。 自らすすんで体を鍛える組織的・継続的な教育活動を実践する。	A	A	・実行委員による体育祭などの運営や生徒会執行部、委員会によるキャンペーンの開催、各学年の取り組みなど、生徒の自主的な活動ができた。 ・学校保健委員会、部活動などを通して、体力向上や健康な生活を送ることを生徒に意識させることができた。	A	・合唱コンクールや体育祭において、生徒会執行部が自主的な活動ができている。 ・さまざまなボランティア活動について、今年度は教員が呼びかけをしていたが、生徒会執行部や委員会など生徒を活躍させてほしい。	・来年度も、体育祭や合唱コンクールなどの行事で実行委員を募り、生徒会執行部とともに活動させたい。 ・「ボランティア活動の呼びかけはボランティア委員会が行う」など、委員会活動を更に活発にするように、特活主任を中心に検討していく。
	安全安心な学校づくり	安全マニュアルによる訓練の実施と事後の見直しを教職員に周知し、安全管理の徹底と安全教育の推進に努める。	A	B	・生徒の様子を見ながら、注意喚起など未然に事故やけが防止に努めた。また必要に応じ救急車を要請し、安全安全に留意した。 ・活動内容を精選したり、日課を見直して会議の時間を確保したりするなどし、時間内での活動の充実を図った。 ・10月末の研究発表会以後は、教職員が心と時間にゆとりをもって取り組むことができていた。	A	・安心安全な学校づくりにしっかりと取り組んでいる。生徒の命が大切なので、「首から上のけが、腹部のけが」は、ためらわず救急車を呼んでよい。 ・働き方改革については、長期的な問題であると思う。現場で改善をしていってほしい。	・ふだんから生徒の様子を見ながら注意喚起を行い、事故やけがの防止を行う。 ・食物アレルギー研修や危機管理の研修など、生徒の安全安全に関わる研修を継続していく。 ・仕事の分散化、会議の回数や内容の見直しなどを行い、教職員が心と時間にゆとりをもって生徒に向き合えるようにする。
	働き方改革	行事・諸活動・会議の見直しや精選を行い、よりよい教育活動を目ざすとともに、教職員が心と時間に余裕をもって取り組むことのできる体制づくりを進める。	B					
	教師の力量向上と連携・協力	現職研修を計画的に進め、教職員の専門性を高める。 職員の持ち味を生かし、連携・協力体制を強めた組織的な教育活動を展開する。	A	A	・タブレットの効率的な活用や危機管理の研修、不祥事防止の研修などを実施し、生徒の安心安全を確保し、教職員の専門性を高める学びをすすめた。 ・タブレットを活用した授業など学校全体で取り組んだ。保護者への周知は不十分であった。	B	・「タブレットカフェ」を行っており、教員のICTスキルの向上に取り組んでいる。 ・不祥事防止などさまざまな研修に計画的に取り組むことができている。	・教職員の入れ替えがあるので、ICTスキル向上のための研修は継続したい。 ・不祥事防止研修など定期的に実施している職員の研修も継続するとともに、その様子をHP等で紹介し、保護者への周知を図っていく。
保護者や地域との情報交換、協力体制構築に努め、生徒の実態に応じた支援体制を強化する。	保護者・地域との協力体制強化	保護者や地域との情報交換、協力体制構築に努め、安心安全で機能的な学校づくりを進める。 HP、学年通信を積極的に活用し、生徒の活動などの情報発信に努める。	B	B	・積極的に地域ボランティア活動に参加することができた。 ・学年通信やHPを活用して、学校の様子の情報発信を行ったが、保護者に十分に伝わっていないと感じる。 ・学校公開の機会が計画通りにできなかった。	B	・地域ボランティア活動に積極的に参加している。 ・学年通信やHPなど情報発信はしっかりできている。保護者が見るかどうかの気持ちだと思う。	・学年通信やHPを活用して、学校の様子の情報発信を更に図ってほしい。 ・地域ボランティアや祭礼など、地域の行事に積極的に参加し、校区のかたがたとの良好な関係の構築を目ざしたい。

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】